

第1回世田谷区外部評価委員会 議事要旨

【日 時】 平成27年11月16日（月） 午後7時00分～午後9時00分

【場 所】 世田谷区役所第1庁舎5階 庁議室

【出席者】

委員 浅輪剛博、大森猛、齋藤啓子、柴田真希、高木史雄、沼尾波子、松田妙子、森岡清志（以上8名）

区 板谷政策経営部長、後藤庁内連携担当課長、笹部政策企画課長、加賀谷財政課長

【配付資料】 資料1 世田谷区外部評価委員会委員名簿

資料2 世田谷区評価委員会設置要綱

資料3 世田谷区外部評価委員会について

資料4 世田谷区の計画体系（基本構想・基本計画・新実施計画）について

資料5 今後の進め方について

資料6 基本計画重点政策体系図

【議事概要】

1. 開会のあいさつ（板谷政策経営部長）

2. 委員の紹介（後藤庁内連携担当課長）

3. 委員長・副委員長の選出について

- ・ 資料2「世田谷区外部評価委員会設置要綱」に基づき、委員の互選により森岡委員が委員長に、沼尾委員が副委員長に選出された。

4. 外部評価委員会について

（1）資料説明

- ・ 資料3「外部評価委員会について」に基づき、後藤庁内連携担当課長より説明を行った。

（2）外部評価委員からの主な意見

- ・ 「小委員会」は議論の過程で必要に応じて設置するものであり、場合によっては活用しなくてもよい。今回は、委員の人数が少ないため、基本的には無理に委員会を分ける必要はない。

5. 世田谷区の計画体系について

（1）基本構想審議会委員からの報告

- ・ （上野区民委員）基本構想策定時には、主婦として子どもの視点を大事にしたいと思い参加した。区の行政と区民がうまく協働できてよかった。基本構想で話し合った男女差別の問題などについて現在区長が取り組んでいるのを見て、2年前の基本構想が動き出しているという実感を持っている。
- ・ （永井区民委員）基本構想案の作成にあたっては、公共的な視点から区民にとって分かりやすくまとめる、20年後にも鮮やかに伝わる世田谷らしいキーワードを

盛り込む、ということをお大切に作成した。また、案の作成にあたって世田谷区で初めてとなる無作為抽出による大規模なワークショップが実施されるなど基本構想策定にあたり区民参加の多様な機会が設けられたことも特徴だ。現在、基本構想の策定過程に参加した区民がアクションを起こしている。そうした区民の活動・参加・協働の内容やプロセス、その基盤となる情報公開などについて評価してほしい。

- ・（宮本区民委員）子どもの闘病の経験から、多様性を認め合い、自分らしく暮らせる地域社会の大切さを基本構想に盛り込みたいと思い参加した。多様性を大事にしないことは、敵対する相手を否定し、血の通った相手であること忘れてしまう。また、評価にあたっては、簡単に悪い評価を下してしまった取組の中にも可能性に満ちた取組があることを指摘したい。
- ・（松田区民委員）P D C Aのサイクルを文言として基本構想に盛り込みたいと思い参加した。今回の外部評価委員会の目的について、配布資料の文言があいまいであり、具体的にどのように活かされるのか明確にする必要がある。また、外部評価委員会の結果が議会でどのように扱われるのか、初めに議論していただきたい。

6. 外部評価委員会の今後の進め方について

（１）今後のスケジュールについて

- ・ 次回以降の外部評価委員会の日程は下記の通り決定した。
第２回委員会：平成28年１月８日（金）午後７時～
第３回委員会：平成28年２月19日（金）午後７時～
* 開催場所については改めて事務局より連絡することとする。

（２）外部評価委員会の今後の進め方について

検討の対象について

- ・ 本委員会は、個別の事務事業の評価を行うのではなく、今後の世田谷区に適した評価のあり方を検討することを目的とすることとする。
- ・ 世田谷区として今後取り組む必要がある点について、適切に評価可能な新しい評価軸を検討、設定する。
- ・ 現在、市民活動推進課が区とN P Oの協働事業に対する補助事業を行っているが、例えば、協働事業について協働のコーディネートの実施状況の評価する項目を盛り込むのはどうか。評価軸があれば職員のモチベーションも上がる。また、事業を実施するにあたり実際にどれだけ区民の参加を促進することができたかを、新たな評価軸として設定することもありうる。
- ・ また、高齢者・障害者を含めた地域包括ケアシステムは、福祉だけではなく防災にも深く関係しているなど、各重点政策は横断的につながっている。所管課同士の横断的な連携があったのかについても新しい評価項目として盛り込むことを検討する。
- ・ さらに、サッカーに例えれば、ゴールを決めた選手、それをアシストした選手までは評価されるが、そのさらに手前でアシストした選手にボールを渡した選手が

評価される仕組みが必要である。

- ・ また、評価にあたっては、成果を上げるまで時間がかかる事業と、前倒ししてでも評価を先行したほうがよい事業など、時間軸を意識する必要がある。
- ・ 基本構想で掲げられた施策について、もうすでに実際のアクションにつながっている事業もある。策定から2年が経つ中で、すでに動き出したということ自体を評価する項目も加えたい。

検討の方法について

- ・ 上記の、「参加」「横断的連携」「実践」の評価軸を考えていくにあたり、具体的な事業をテーマに設定したほうがやりやすい。これらの4つの観点から成功している事業と課題の多い事業を具体的に提示していただいた上で、次回以降は議論した方がよい。
- ・ 今後20年先を見据えた際に、10代の意見も丁寧に拾う必要がある。
- ・ 今回の外部評価委員会では新しい評価軸を議論するということが主とすることでよいが、一方で予算編成の参考にする行政評価へのご意見も重要である。理想としては、「参加」「横断的連携」「実践」などの新しい評価軸を検討しつつ、これを反映した評価も行っていくことが想定される。

7. 次回スケジュール：平成28年1月8日（金）午後7時～
* 場所については後日連絡する。